

ひとつのことばだけでも ひと は わかりあえる

初瀬基樹

早いものでもう3月。年長さんはもうすぐ1年生です。大きな期待と不安も多少あると思います。そんな年長さんにぜひ読んでほしい詩を紹介합니다。内田麟太郎さんという方の詩です。子どもたちも大好きな『ともだちや』という絵本の作者でもあります。(…絵は別の方が描かれています。)

はじめまして

あかちゃんがいう
ーわぶ わぶ わぶ
かあさんがいう
ーそうなの そうなの うれしいの

あかちゃんがいう
ーわぶ わぶ わぶ
かあさんがいう
ーそうなの そうなの おなかがすいたの

あかちゃんがいう
ーわぶ わぶ わぶ
かあさんがいう
ーそうなの そうなの おしっこしたの

あかちゃんがいう
ーわぶ わぶ わぶ
かあさんがいう
ーそうなの そうなの だっこなの

ひとつのことばだけでも
ひと は わかりあえる

ぼくはせかいにいてみる
うまれたてのことばで
まだどのくにのことばでもないことばで

ーわぶ わぶ わぶ

(内田麟太郎 『ぼくたちは なく』 PHP研究所より)

うまれたての赤ちゃんは言葉をまだ獲得していないので、何を言っているのかわかりませんよね。でも、不思議とお母さんにはわかるのです。わからないとしても、お母さんは一生懸命、赤ちゃんが何を言おうとしているのか、わかろうとします。だから、ますます赤ちゃんも一生懸命自分の気持ちを伝えようとしてきます。この「相手の気持ちを分かってあげようとする気持ち」、「伝えようとする気持ち」、お互いのこの気持ちが人と人の信頼関係を育んでいくのだと思います。

“ともだちになるために 人は出会うんだよ どのどんな人とも きっとわかりあえるさ”

(作詞: 新沢としひこ「友達になるために」より)

不安もあると思いますが、どんな人ともきっとわかりあえる。そう信じて、年長さんたちには、勇気をもって一歩を踏み出してほしいです。